

知床羅臼写真コンテスト 2018

受賞者発表

知床羅臼写真コンテスト 2017 に多くのご応募頂きありがとうございました。
厳選なる審査の結果、各賞が決定いたしましたので、ここに発表致します。

<最優秀賞>

木戸寛之「決着 2 秒前」

<生き物部門>

土屋幸子「羅臼の海」

<自然・風景部門>

千家丈人「旭光の釣戦者達」

<スナップ部門>

大石陽介「我が町伝統の千人踊り」

知床羅臼町観光協会

応募総数 62 点

(生き物部門 40 点、自然・風景部門 9 点、スナップ部門 13 点)

審査員講評

【全体を通して】

羅臼らしい作品が多かった。構図もバラエティに富んでいた。

視点が今までとちょっと変わった。視線が違うためすごく新鮮でいい写真が多かった。

生き物部門は風景の中の動物をもっともっと気を付けて見て撮ってもらえれば、知床の良さが出る写真になる。

【最優秀賞】 木戸寛之「決着 2 秒前」

動物同士の絡み合いが見られる場所は全国的にも珍しく、貴重なシーン。そのチャンスを逃さず撮っているのがすごい。

シカ・フクロウそれぞれが横並びであったが、フォーカスが両方に上手く合っている。夜間の撮影時に、これだけ多くの被写体が入っているのは素晴らしい。

タイトルのとおり、この 2 秒後にどうなったのかを期待するような写真。

【生き物部門賞】 土屋幸子「羅臼の海」

この写真が撮影されたのは、知床半島の先端に近い場所。

断崖的な山肌をバックに、若いオスとメスが噴気を上げながら泳いでいる様がとても知床らしい。岩肌が見られる中で写真を撮るといのはなかなか難しいが、良く撮れている。

写真に写っている海岸沿いはよくヒグマが現れる場所なので、海岸沿いを歩いているヒグマも一緒に撮影できていた可能性がある写真。

【自然・風景部門】 千家丈人「旭光の釣戦者達」

今年は川に遡上する鮭が多く、それを狙って沢山の釣り人が来ていた。今年らしい写真。

川に魚がいるのが想像できる。

釣り人が一列に並んでいるのが構図的に面白い。

ワンポイントでカモメがいるのもいい。

【スナップ部門】 大石陽介「我が町伝統の千人踊り」

スナップは簡単なようで実は 1 番難しい。人物が写っている場合は細かな表情に注目し、上手く引き出さないといけない。そんな中この写真からは踊りの雰囲気伝わってきていい。

審査員

審査委員長 石井 英二

副審査員長 関 勝則

審査員 平原 英雄